

新潟県がん診療連携協議会

## 平成 29 年度第 1 回情報連携部会 議事要旨

日時 平成 29 年 7 月 26 日（水）13：30～

場所 新潟県立がんセンター新潟病院 2 階 講堂

### 1.各施設のがん連携パス利用状況

#### ○新潟大学病院

運用数が増えている。連携先が決まってから連携先を変更する場合、他施設ではどのように対応しているのか。乳腺外科医師より、地域連携パスの運用見直しや意見を述べる場があれば、ぜひ参加をしたい、と話しがあった。

#### ○済生会第二病院

新規でそれぞれの病院で連携保険医療機関として届け出をした施設の、県全体の更新が滞っているため毎年更新する必要がある。運用件数の訂正があった。

#### ○長岡総合中央病院

運用頻度が少ない。大腸 2 件のみ。連携ノートを活用することで患者様のメリットがあるのか、実際のところを聞いたことがあるか、お聞きしたい。今後連携ノート使用の拡大が必要なのか、担当医師にも確認していきたい。

#### ○長岡赤十字病院

乳がんの地域連携パスについて。連携先を決めてからの変更は算定が取れなくなる。手上げいただいている連携先の先生の中には、乳がんをみたことのない先生にもご協力いただいている。その先生方の負担にならず、また患者さんが受診した際には相談できる体制をとれる機関としての役割を考え、乳がん指導医から院外に向けての講演や勉強会を開催するなど、草の根運動的なことを実施。他のパスに（乳がん以外）関してはメリットが見いだせない。

他のパスに関しては、やり取りの負担が大きい。乳がんも時間はかかるがクラークさんにも協力してもらっている。

#### ○県立中央病院

乳がんパスの掲示違い。131件に訂正。前立腺がんパスに関して、泌尿器科医師に確認したところ、医療連携ノートのバリエーションの部分で意見あり。事務局に提出。どのようにしたらよいかコメントいただきたい。

#### ○事務局より

がんセンターの実績は乳腺外科のみ。変更の希望があった場合、新規の連携先に依頼届と診療情報提供書を送信。この際必ずしも患者様の受診が必要ではない。原本を患者様に送付。元の連携先には逸脱届を出している。主治医によるが謝辞を込めた診療情報提供書を作成している。

対応する患者と時間は毎週6人～9人で、ひとり30分くらい。連携室の相談員、あるいは看護師が対応している。時間的な厳しさはある。看護師の提案で複数人に対する面談を一度に実施できないか検討されたが、個別的なケースであるがゆえに実施には至らなかった。

連携医療機関の更新は8月の完了をめざしている。新規登録がある場合はがんセンター地域連携室までご連絡いただきたい。

連携パスの拡充は必要なのかについて。がんセンターでは乳腺パスのみの活用だが、連携パスの活用がなければ診察が滞る現状がある。

#### ○前立腺がんパスについて（竹之内情報連携部会長）

かかりつけ医、内科の医師にも見ていただけるようシンプルなものにした。登録制ではなく、診療報酬上も点数が発生しないものである。紹介状と、パスを送付、診察してもらえますか？と確認する、といった簡単なものを想定している。現在、大学教授の承認待ち。県医師会の承認が得られたら、ホームページ上の地域医療支援コーナーでアップし、がんセンター斎藤医師より開設記事を提供してもらい、あわせて開示する予定。

#### 2.第9回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告（竹之内情報連携部会長）

資料5に関し、抜粋して話しがある。

#### 3.がん相談支援センターについて現状報告

各病院より資料6、資料7に関するとおりの報告がある。

#### 4.PDCA サイクルについて（竹之内情報連携部会長）

今年2月にPDCA サイクルフォーラムがあった。新潟県は4つ部会がある。新たにPDCA 部会を設置するのは現実的ではない。PDCA サイクルはテーマではなく活動の方法論。緩和部会長あてに、抽象的な呼びかけではあるが、文書で提出しているところである。

#### 5.参考資料1に関する説明（がんセンター植本）

治療と仕事の両立支援のための地域両立支援促進チームが設置され、関係各人が参加し始動している。既に開始になっている事業と重複する部分が多いが、労働基準部健康主務課が事務局となり事業が開始された。

#### 6.相談件数のカウント方法について（竹之内情報連携部会長）

資料8は相談件数の見える化を目的として国立がん研究センターが提案しているものである。資料9はシステムの紹介など各病院に提出いただいたもの。資料8に基づいて県内で使用しているのは長岡中央病院。

○長岡中央病院より

相談記入シートの検討段階のものを使用中。昨年の8月から使用。入力の手間はあるが後の集計や統計を取るうえでは活用できる。2回目以降に来られた場合は色が変わるなど、使いやすいようにアレンジしている。エクセルで作成し、使用している。

#### 7.地域相談支援フォーラム（がんセンター若井）

##### 参考資料2

地域相談支援フォーラム in 北関東甲信越 どうしてですか？患者が自分の最期を考えると き～事前意思指示書と共に考える～をテーマに平成29年11月18日（土）群馬大学を会場にフォーラムが開催される。主催は群馬大学。新潟県は北関東甲信越に所属するため今回後援の県となっている。プログラムの内容はシンポジウム、特別講演、グループディスカッションを予定しており、各県10名ほどの参加をお願いされている。がんセンターから5名、参加を予定しているが、他5名をどちらかからお願いしたい。参加費は無料だが交通費は各病院もち。

シンポジストとして若井が参加予定。各県の事前意思表示への取り組みに関する内容がその内容。それぞれの病院のアンケート結果から、ICはするが意思表示のところでは同意書として残すことにまではされず、倫理指針やマニュアルにのっとり実施されることが望ましいがそこまで至っていないのが新潟県の現状。壮大なテーマであるため再度、協力をいただき、本日配布の資料に関し8/4ころまでにFAXで返信いただきたい。

## 8.認定がんナビゲーター制度（がんセンター波多野）

### 参考資料3

がん相談支援センターには様々な課題がある。その課題解決に向け、必要と思われる解決策のひとつにがん相談支援センターの機能の強化があがる。院内外の連携体制の構築と同時に相談員の質の向上が必要で、今年度、新潟県でも活動報告にあったように相談員指導者研修や認定がん専門相談員事業に数名が参加を予定している。

参考資料3はがん患者・家族とがん相談支援センターを繋ぐ役割を持つ日本癌治療学会の学会認定の新制度。相談員としての役割が拡充しており、相談員の質が担保されることを目的とした研修や新設された制度などができているため、参考にしていただきたい。

## 9.竹之内情報連携部会長より

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会の開催が年2回だったところ今年度より1回となった。この新潟県がん診療連携協議会情報連携部会は親部会の開催後皆様に集まっていたため、親部会にならって、本年度より情報連携部会を1回の開催としようと考えている。

部会のメーリングリストを作成し、情報ツールのひとつとして活用していく。開設したらメールで配信する。





## 医療連携ノート運用状況

	担当者/所属部署	連携ノート運用について、気がついたことや問題点等	今後の課題等について・ご意見
県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター	西潟幸江 地域連携・相談支援センター		
県立新発田病院 がん相談支援窓口	高橋・若月 地域連携センター		
新潟大学医歯学総合病院 がん相談支援室	長谷川 恭子 (MSW) がん相談支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度のバス説明数は逸脱を含め、108件で、前年度よりも増加。</li> <li>バス運用開始後に連携先の変更を希望する患者様がいらっしゃいますが、その際の手続きは1度基幹病院を受診して連携先を変更する形でのよいのでしょうか。もし、他の方法で連携先変更を実施している医療機関がおりになるようであれば、どのように実施しているか情報提供いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス利用者が多くなっており、説明時間の増加や患者様のニーズも多様化している。他の医療機関様ではバスの説明者はMSWでしょうか。また、説明短縮のための工夫などあれば、この機会に情報提供いただきたい。</li> <li>バスに関わるスタッフが入れ替わり、理解度がさまざまになっている。今後院内でバスについて確認のための打ち合わせを行う予定。</li> </ul>
新潟市民病院 地域医療室	伊藤和彦 (診療部 消化器内科)		
済生会第二病院 がん相談支援センター	佐藤 真衣子 地域医療連携室		新規でそれぞれの病院で連携保険医療機関として届け出をした連携医療機関の県全体の更新が滞っているため、毎年更新できるよう改善してほしい。
長岡赤十字病院 がん相談支援センター	白井直美 がん相談支援センター		
長岡中央総合病院 がん相談支援センター	藤田弥生 福祉連携センター 病診連携室	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用頻度が少ない。</li> <li>連携ノートを活用することで患者様のメリットはあるとおもいますが、実際患者様の声をお聞きしたいと思うが反応を聞くことができるか、聞いたことがあるか。</li> </ul>	連携ノートの活用の拡大が必要なのか（Drへの周知やメリットの拡大の必要性があるか。）
県立中央病院 地域連携センター	樋口伸子 がん相談支援センター 地域連携センター		
新潟労災病院 相談支援室	中澤康平 医事課 医療ソーシャルワーカー		
立川総合病院 医療相談室	利用なし		
柏崎総合医療センター がん相談支援センター	岩下弘子 病歴室		
上越総合病院 がん相談コーナー	今井一徳 医療福祉相談室		
西新潟中央病院	八木恵 医療相談室		
佐渡総合病院	本間裕久 がん相談支援センター		まずは活用してみることに、院内ルールを決めることが課題。

PSA測定の間隔は担当の先生と相談し、定期的に見ていきます。  
 受診時はこの「医療連携ノート」をお持ちください

医療連携ノート (前立腺PSA観察)	
様	生年月日
年	月
日	日
再受診の目安値	ng/ml
生検日	年
	月
	日
生検時PSA値	ng/ml

目標	PSA値が再受診の目安値以下で推移する(経過観察の目安は6か月ごとです)									
日付	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )
PSA値	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml
備考										

目標	PSA値が再受診の目安値以下で推移する(経過観察の目安は6か月ごとです)									
日付	11回目	12回目	13回目	14回目	15回目	16回目	17回目	18回目	19回目	20回目
	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )	( / )
PSA値	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml	ng/ml
備考										

	がん相談支援センターで検討・計画していること	相談案件数 (H28.4.1～H29.3.31)		相談件数のカウントについて気がついたことや課題と感じていること
県立がんセンター 新潟病院 地域連携・ 相談支援センター	認定がん相談員と指導者の育成 認定がんナビゲーターの育成	面接相談 電話相談 その他	5588 1159	転院相談など関係機関との連絡が必要なケースも多く、相談件数としてカウントするかしないかの判断が難しい時がある。
県立新発田病院 がん相談支援センター	「がん患者の声を聴く」ことを目的に、サバイバーの方に講演をいただく予定。	面接相談 電話相談 その他	592 221	相談内容にかかわらず、主病名が「がん」の患者からの相談はカウントしている。
新潟大学医歯学 総合病院 がん相談支援センター	・がん相談支援センター主催の情報提供目的としたがんサロンを年2～3回程度予定。今年度は7/12にストレッチとハンドマッサージでの体験形式の講義を実施した。緩和ケアチーム主催のがんカフェも月1回程度定期開催することができており、がんサロン・がんカフェともに定期開催を根付かせていきたい。 ・がん相談員指導者研修への参加。 ・認定がん相談支援センターへの登録。	面接相談 電話相談 その他	981 617	
新潟市民病院 がん相談支援センター		面接相談 電話相談 その他	569 169	・2017年1月に電子カルテのシステム変更を行い、相談件数のカウントも移行しているため、現時点では課題等の確認にまで至っていません。
済生会第二病院 がん相談支援室		面接相談 電話相談 その他	982 326 5	
長岡赤十字病院 がん相談支援センター	長岡市や地域包括支援センターなどへの挨拶とパンフレットの設置依頼	面接相談 電話相談 その他	577 108	
長岡中央総合病院 がん相談支援センター	利用者調査（年1回（時期未定）を予定）	面接相談 電話相談 その他	312 57	
県立中央病院 地域連携センター	・がん学びのサロン4回/年開催予定。	面接相談 電話相談 その他	250 106 4	・がん相談支援センターで対応した場合はテンプレートに記入し、集計を行っている。 ・集計方法の基準があいまいであり、がん相談支援センターの相談件数と全体の相談件数（MSW、臨床心理士、看護師等）に誤差がある。
新潟労災病院 相談支援室		面接相談 電話相談 その他	41 6	今までのカウント方法と相互性があれば良いが、新たな形でのカウントとなり、結果として業務増加となって仕方ないと考えている。
立川総合病院 医療相談室		面接相談 電話相談 その他	90 5	当院では、がん相談支援センターとしての看板は掲げておらず、患者相談の一つとして、がん相談がある。内容は、転院調整、在宅調整が主であり、以前に配布された、厚生労働省研究班確定版「がん相談支援センター相談記入シート」に合わせて記録は可能であるが、項目が多いことや電子カルテに反映されている書式ではない為、利用できていない。相談依頼がある際には、外来、病棟用のソーシャルワーカー以来箋（別紙参照をもらうことで確認している）
柏崎総合医療センター がん相談支援センター		面接相談 電話相談 その他	220 156	総合病院なのでがんのケースのみ抽出していくのはとても時間を取って大変である。
上越総合病院 がん相談コーナー		面接相談 電話相談 その他	40 4	
西新潟中央病院		面接相談 電話相談 その他	16 11	外来や病棟の相談件数の重複についてどうすればよいか迷いがある。
佐渡総合病院	H29年3月より「ひまわりサロン」を開始した。 ※毎月第3水曜日(13:30～15:00)	面接相談 電話相談 その他	21 15	

	PDCAサイクルにおける就労支援の実施状況	就労支援について平成29年に計画している取り組み
県立がんセンター 新潟病院 地域連携・ 相談支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク新潟就職支援ナビゲーターと連携した、就職希望者への情報提供、就労支援</li> <li>H28年度 相談件数 56件</li> <li>・産業保健総合支援センター 両立支援員による復職支援・治療と仕事の両立支援</li> <li>H28年度 相談件数 1件</li> <li>・院内職員向け講演会の実施（平成28年12月開催）</li> <li>治療をうけながら働く方のために 講師：ハローワーク新潟 佐藤大介様</li> <li>～当院における就職支援窓口開設からハローワーク新潟の取り組みについて～</li> </ul>	潜在的な就労支援ニーズのある相談者が窓口につながるよう院内外への広報活動が必要
県立新発田病院 がん相談支援センター	伝達講習を行う。また、両立支援相談員からの情報提供をもとに協定を結び、今後協働していく予定。	
新潟大学医歯学 総合病院 がん相談支援センター	・当院にもハローワークの出張相談の打診をいただいたが、人員や相談場所の確保が課題となり実施には至らなかった。	・現時点では現在の運用を軌道に乗せるのが課題です。
新潟市民病院 がん相談支援センター	就労相談の社会資源の調査・・・研修会やインターネット上に公開している就労支援マニュアルからの情報収集や実際に連携しているハローワーク新潟や新潟産業保健総合支援センターから情報を得た。実際の相談内容として、新規就労先を探してる相談者に対してはハローワーク新潟との連携で対応できているが、復職・就労継続に関しては単発相談が主となり、新潟産業保健総合支援センター以外の関係機関と連携をする場面は発生していない。但し、新潟産業保健総合支援センターの両立支援促進員と連携をとることができるようになった事は、支援の選択肢が広がったことになるので相談者にとってメリットであると考えられる。	特に新たな取り組みの計画はない。現在行っている就労支援の広報（患者向け、職員向け）活動を引き続き行う。
済生会第二病院 がん相談支援室	復職規程のために情報収集していましたが、思うようにいかず規定は作れなかった。今後の予定も決まっていない。	
長岡赤十字病院 がん相談支援センター	アンケート内容検討段階	「事業場における治療と職業生活の両立支援」に係る相談窓口の設置
長岡中央総合病院 がん相談支援センター	今秋に中越地区4病院で患者向けアンケートを予定していきたいと考えている。	新潟産業保健総合支援センターの両立支援促進員による就労相談の協定について準備中。
県立中央病院 地域連携センター	・H28年度はハローワーク担当者との情報交換を行った以降、実施した対策はありません。	6月に産業保健総合支援センター担当者が来院。両立支援事業について説明を受けている。今後、当院でも実施に向けて調整中。
新潟労災病院 相談支援室		
立川総合病院 医療相談室	患者のニーズ把握を目標としてアンケート調査を考えているが、病院移転や医師の異動などの問題もあり、実施できていない。	先日、新潟産業保健総合支援センターより、「治療と職業生活の両立支援事業」の協定の話があり、協定の締結について、院内で検討していくところである。ポスター掲示やリーフレットの配布などの広報についても併せて検討していく。
柏崎総合医療センター がん相談支援センター	取り組めていない状況	
上越総合病院 がん相談コーナー	前回の報告から進展なし H28.6.28に県立中央病院、新潟労災病院、ハローワーク上越の担当者と就労支援の状況や取り組みについて話し合いを行っている。 地域の社会資源調査で関係機関や企業を訪問またはアンケート調査の実施を検討していましたが、ハローワーク上越より詳細の情報をもらえたため調査は実施しなかった。各機関で就労支援の課題をリサーチしているところ。	
西新潟中央病院	検討中	今年度中にアンケート調査を実施させたいと考えている。
佐渡総合病院	対象者なしの状況	個別的な対応のみで計画的な取り組みは現在のところない

平成29年度

# 地域相談支援フォーラム in 北関東甲信越 どうしていますか？

## 患者が自分の最期を考えるとき ～事前意思指示書と共に考える～

【開催日時】平成29年11月18日(土)

10:00～16:30(受付9:30～)

【会場】群馬大学医学部附属病院 刀城会館

群馬前橋市昭和町3-39-15

【対象者】北関東甲信越地区のがん相談支援センター医療従事者

※特別講演のみ、がん相談支援センター以外の医療従事者の参加を受け付けます

## 【プログラム】

## ○シンポジウム

各県における事前意思表示の取り組みについて

## ○特別講演

「終末期医療に関する法と倫理

ーやりたいこと&amp;できることを考えるために、正しく知る&amp;理解する(仮題)」

国立精神・神経医療研究センター

臨床研究支援部 倫理相談・教育研修室長 一家 綱邦先生

## ○グループディスカッション

相談員として意思決定支援に必要な知識や技術について

事前意思指示書に関する相談員の対応について



群馬県の県花：レンゲツツジ



茨城県の県花：バラ



栃木県の県花：セシオツツジ



新潟県の県花：チューリップ



山梨県の県花：フジザクラ



長野県の県花：リンドウ

主催：群馬県がん診療連携協議会

共催：国立がん研究センターがん対策情報センター

後援：群馬県、茨城県、栃木県、新潟県、山梨県、長野県、  
群馬県看護協会、群馬県医療ソーシャルワーカー協会、群馬県医師会

【申し込み】国立がん研究センターがん情報サービスのホームページをご覧ください

[http://ganicho.jp/med\\_wro/consultation/forum/h29/kitakantoshinetsu\\_20171118.html](http://ganicho.jp/med_wro/consultation/forum/h29/kitakantoshinetsu_20171118.html)

こちらの2次元コードを読み込むとご覧いただけます →

【問合せ先】群馬大学医学部附属病院(メールでのお問い合わせをお願いいたします)

Mail: forum2017@ml.gunma-u.ac.jp





# がん医療ネットワークナビゲーター制度

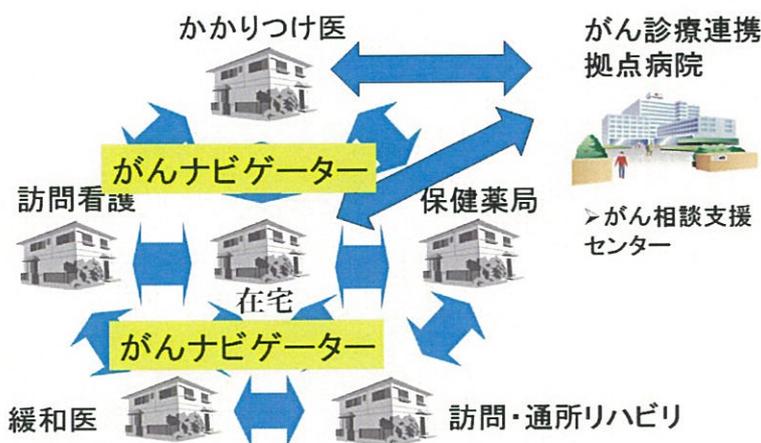
日本のがん医療の発展と進歩を促進し、国民の福祉に貢献することを目的として、一般社団法人日本癌治療学会では、認定がん医療ネットワークナビゲーターの育成を開始することとなりました。

かねてより本学会では、だれもが安心、満足できる理想のがん医療の一層の充実を目指して鋭意努力と検討を重ねてきました。がん患者困窮の3大要因は、医療情報の不足、高額医療費の支払い、精神的な寄り添いの不足に集約されることが指摘されてきました。このため、がん医療情報の提供は、患者・家族に対するがん相談支援としてがん対策の大きな柱の一つに位置づけられています。二次医療圏をカバーするがん診療連携拠点病院では、がん相談支援センターの設置が義務付けられ、その相談員は専門的研修の受講を義務付けられるなど、拠点病院でのがん相談支援事業は充実しています。しかし人員が絶対的に寡少であるなどその活動の展開には脆弱性の感があります。本学会では、拠点病院のがん相談支援業務を補完するようながん医療ネットワークナビゲーター（以下：がんナビゲーター）認定制度を検討しました。がんナビゲーターとは、がん情報の提供のみに特化した人材であり、医療実務には係わりません。すなわち、がんに関する正確な情報を的確、適切に患者・家族に伝え、患者・家族の疑問に答えて悩みを解決する手助けのできる在野のがん相談支援員と言えます。がんナビゲーターは必ずしも医療者資格を要せず、ピアサポーターや福祉・介護職などを含め、その地域のがん診療ネットワークに属している者が有資格者であり、本学会の所定の履修により資格が付与されます。

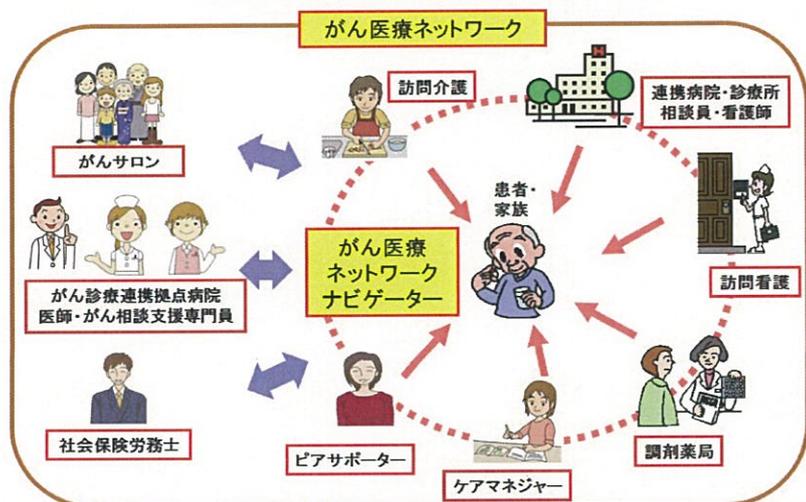
本学会では、関連する様々な組織・学会との連携と協同のもと、2014年秋から全国3地域（群馬・福岡・熊本）でモデル事業を開始しました。なお、最終的な認定がんナビゲーターの人数は、がん治療認定医と同じ2万人を目標としています。

<b>背景課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてが未知の体験であるがんとの闘い</li> <li>高齢化、独居化の進むがん患者</li> <li>限定される情報収集手段</li> <li>玉石混淆の膨大な情報</li> <li>“知る”ことは医療と生活の選択基盤</li> <li>不十分ながん医療、医療サービス情報の提供体制</li> <li>低質、高額な負担を要する医療コーディネーターの乱立</li> <li>がん診療提供体制の急速な変化</li> </ul>	<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん診療連携機能の強化</li> <li>地域ネットワークを機能させる効率的な情報提供体制の確立</li> <li>地域がん医療情報に精通した「がん医療ネットワークナビゲーター」の養成</li> <li>施設・機関を超えたがん医療ネットワークナビゲーターの地域ネットワーク内配置による情報提供の強化モデル事業の実施</li> <li>満足できるがん医療と社会生活を送るための具体的な情報をすべての患者に確実に伝える仕組みの構築</li> </ul>
-------------	---	-----------	---

## がん医療ネットワークナビゲーターの活躍場所



## 業務内容と地域の中での役割



## スケジュール

2014年 ∞ ∞	9月 群馬にて教育研修セミナー①
	10月 福岡にて教育研修セミナー①
	12月 熊本にて教育研修セミナー①
2015年 ∞ ∞	1月 コミュニケーションスキルセミナー実施要綱確定
	2月 実地研修要項確定
	3月 研修施設・指導責任者の確定
	4月
	5月
	6月 コミュニケーションスキルセミナー②
	7月 ・群馬会場
	8月 ・福岡会場
	9月 ・熊本会場
	10月 第53回学術集会にて①②
	11月
	12月
2016年 ∞ ∞	1月
	2月
	3月

eラーニング受講 ↓ 実地研修 ↓

本会では、日本のがん医療の発展と進歩を促進し、国民の福祉に貢献することを目的として、認定がん医療ネットワークナビゲーターの育成をおこなっております。

**2017年11月1日より制度が新しくなります。**制度の詳細につきましては規則・細則をご覧ください。

新制度の概要について、下記にてご案内いたします。

『がん医療ネットワークナビゲーターの役割について』

e ラーニングの内容を一部ご覧いただけます



2017年7月7日

一般社団法人日本癌治療学会

記

旧) ・認定がん医療ネットワークナビゲーター → 新) ・認定がん医療ネットワークナビゲーター

・認定がん医療ネットワーク**シニアナビゲーター**

(旧制度での認定がん医療ネットワークナビゲーターは、新制度の**シニアナビゲーター**に該当します)

【業務内容】

### ネットワークナビゲーター

- (1) 地域におけるがん診療情報や医療サービス情報を収集する
- (2) 地域におけるがん診療情報や医療サービス情報を提供する
- (3) 地域のがん診療連携活動に参加する
- (4) 医療介入またはこれに相当する可能性のある行為は行わない

### シニアナビゲーター

- (1) 地域におけるがん診療情報や医療サービス情報を収集する
- (2) がん患者・家族等の求めに応じ、がん診療情報や医療サービス情報を適切に提供する
- (3) 地域連携クリティカルパスの運用支援を行う
- (4) 臨床試験・治験に関する情報を適切に提供する
- (5) がん診療連携拠点病院の相談支援センターと連携し、地域のがん診療連携活動を推進する
- (6) 医療介入またはこれに相当する可能性のある行為は行わない

## 認定の流れ

## Step1



認定がん医療  
ネットワーク  
ナビゲーター

e-LEARNING の  
修了証・バッジ

## 旧制度

- ① 教育研修セミナーを受講し、  
e-LEARNING を全て受講した方
  - ② e-LEARNING を全て受講した方
- ①②の方は認定がん医療ネットワークナビゲーターの申請を行って下さい。
- 12月までにコミュニケーションスキルセミナーを受講される方は旧制度の e-LEARNING の 9 講義を受講していればお申込み頂けます。

e-ラーニング  
受講

申込：随時ホームページより受付  
受講料：10,000 円  
約 1 時間の講義を視聴し、確認テストを受講、約 40 講座あります。

申請・認定

申込：随時ホームページより申請書  
を入手し、手続き  
申請料：2,000 円  
提出資料：申請書

コミュニケー  
ションスキル  
セミナー受講

申込：開催の 2～3 か月前より募集  
受講料：5,000 円  
3 時間半のセミナーです。1 グループ  
4～5 人で受講して頂きます。

実地見学

申込：随時ホームページより受付  
提出資料：実地見学申請書・  
健康診断書・秘密保持誓約書・実  
地見学同意書・在職証明書  
実際に実地見学施設により見聞

申請・認定

申込：随時ホームページより受付  
申請料：5,000 円  
認定料：10,000 円  
提出資料：申請書・相談シート記録  
一覧・相談症例レポート・  
SBO チェック項目一覧表



認定がん医療  
ネットワーク  
シニア  
ナビゲーター

認定証・バッジ・  
認定カード

## 【問合せ先】

一般社団法人日本癌治療学会 東京事務所  
〒104-0033 東京都中央区新川 2-13-10 新川ビル2階  
TEL : 03-5542-0546 FAX : 03-5542-0547  
E-mail : [navi@jsco.or.jp](mailto:navi@jsco.or.jp)